

令和4年度八尾市産業振興会議 第2回本体会議 議事録	
日 時	令和4年9月16日(金) 15時00分～17時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 セミナールーム・多目的室
出席者	<p><委員 10名> 山縣座長、滝本副座長、今岡委員、岡田委員、樫本委員、梶本委員、佐藤委員、西村委員、美馬委員、山田委員</p> <p><事務局 10名> 新堂部長、後藤課長、林田参事、田中参事、内藤課長補佐、稲森係長、高尾、杉原、運営支援事業者 肥後氏</p> <p><オブザーバー 1名> 八尾商工会議所 江口所長代理</p>
<p>－事務局による司会で次第に沿って進行－</p> <p>1. 開 会</p> <p>事務局より、欠席を報告。併せて、全委員19名のうち10名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることを報告。</p> <p>・魅力創造部長よりあいさつ</p> <p>2. 議 事</p> <p>－山縣座長による議事進行－</p> <p><u>(1) チェックイン</u></p> <p>グラフィックファシリテーターの肥後氏より、チェックインの方法について説明。</p> <p><u>(2) 八尾市の産業振興について</u></p> <p>事務局より資料「八尾市の産業政策について」に沿って説明。</p> <p><u>(3) ワーク1：前回アイデアのグルーピング</u></p> <p>～実証実験を今年たくさんやっていく。どういうカテゴリがある程度見定めることで、実験時にイメージが付きやすく、共有しやすくなる～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机上に前回（第一回）で出た委員の意見を、名刺サイズのカードに記載し置いている ・それらの意見を3つのカテゴリーに分けていく（新しいアイデアがあれば追加もOK） <p>① コミュニティ参画の支援</p>	

② 働くことの楽しさを伝えるためのコンテンツ制作

③ 挑戦する人を育てるための情報発信

今日のゴールとしては、「実際に“私やってみたいな”ということを選んで考えてみる」

(選んだアイデアは今後検討部会で検討していく)

上記内容を、各グループで 10 分ワーク。

～結果の共有～

【グループ 1】

「みせるばやおの活用」

- ・みせるばやおは、3つの輪の中のど真ん中に置いた（コミュニティ参加への支援、コンテンツ制作、情報発信、全て今やろうとしていること）
- ・《追加》オープンファクトリー（子供たちに働くことの楽しさを伝えるコンテンツ）
- ・《追加》ふれあいまつり（地域のまつりも活性化していく。学校同士でやっては）

「農地の活用」

- ・農業と製造業、IT を掛け合わせて新しい産業を生み出していけたら



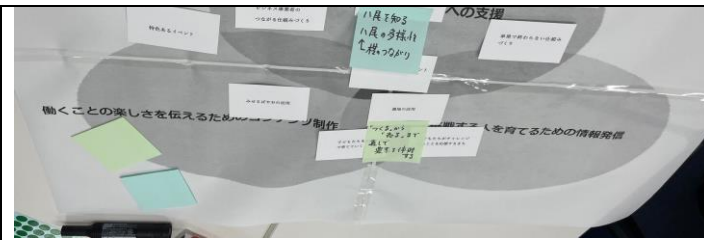
【グループ 2】

「農地の活用」

- ・農業は学校で導入・体験しやすい
- ・ジュニエコみたいに提案する・作る・売る・料理まで考えて、通しで農業を考える（やってておもしろいとなると、農業というものが、価値を生み出せるもの、新しいアイデアを生み出せるものとして、「持続的な学びのイベント」となるのでは）

「八尾空港を活用」

- ・空地しか思い浮かばない。現状は、八尾は地域の島みたいになっていて横のつながりがなく「まとまった八尾」ってイメージがない。そのある種の多様性をつないでいく。そこから新しいアイデアが生まれるかも。

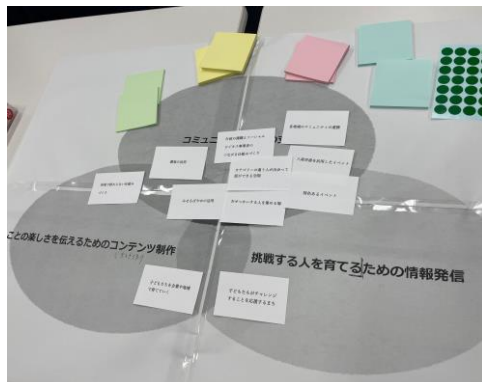


【グループ3】

「子供たちがチャレンジすることを応援するまち」

「子供たちを地域や企業で育てていくまち」

- ・ 八尾の未来の子供たちのために何が出来るか？挑戦する子供たちを育てるためにはどうしたらいいのか？
- ・ 学校と地域の大人たちが子供たちとの接触を増やす。でも学校の先生は既にやることがいっぱい。地域の大人が子供たちを支援して育てていく、そんな街になったら最高！



～以上3グループの意見を一つに集約～

その集約した意見に、「自分はどのアイデアにコミットしたいか」シールを貼っていく。

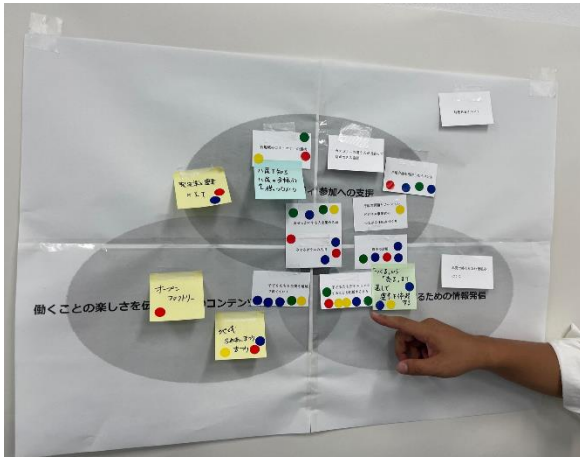
(一人4枚。1アイデアに1枚でなくてもいい)

(4) ワーク2：基本プロセスを考える

～3つを集約した後、山縣座長より補足～

- ・ 特色あるイベントは「何でも入る」という意味でこの配置にした
- ・ おせっかいする人を集める場とみせるばは真ん中には来るだろうなと思い、真中に
- ・ 子供のことばかり言ってるけど、大人は何してる？大人の副業チャレンジもカテゴリに入ってくるのでは？

～上記の補足を踏まえ、各自シールを貼っていく～



シールの多かった3アイデアに分かれて、基本プロセスに基づいて、中身を考える

- ① 「子供たちがチャレンジすることを応援するまち」
「子供たちを地域や企業で育てていくまち」
- ② 「農地の活用」
- ③ 「みせるばやお活用」「おせっかいする人を集める場」

～実証実験の基本プロセスについて山縣座長より説明～

1. 今の段階のアイデアはまだ抽象的、でも逆に可能性がある。
今回どういうゴールを目指したいか。「収束と拡散」。どんどんアイデアを出し、収束や拡散をさせながらどういうことができるのか考えていく。
2. 誰のどんな資源を活用していくのか。学校も資源の一つ。先生の科目的な知識も資源。協力をお願いする。そして明確化していく。
3. どういう手順でやっていくのか見定める
4. お金も必要になっていく
5. 失敗してもいい、成功ばかりしてるのは実験じゃない。エジソンみたいに「失敗する方法がわかった」「こうすると失敗してしまう」とわかる方が大事。

どういうゴールを目指したいか、各グループにて発表

- ① 「子供たちがチャレンジすることを応援するまち」
「子供たちを地域や企業で育てていくまち」
 - ・中高生向けには、いろんな職業の人を見せたい。
 - ・「大失敗大賞」失敗したらするほど褒められる。小学生の部・中学校の部。何もしてない人より褒められる！
 - ・褒め達（八尾中褒める人しかいない作戦）
 - ・芸術系大学とのコラボで工場アート（“アートのまち”と呼ばれ、話題性にも）

- ・学校現場は今、教科学習で精いっぱい。でも土日の居場所も必要。
- ・中学校は職業体験がある。「夢作文」夢を表彰されるのは意欲を掻き立てられ、好循環になる。
- ・「給食コンテスト」学校給食を自分で考え、選ばれたら作ってもらえて食べることができる。地域の料理屋さんでも連携できれば。

② 農地活用

- ・休耕地を利用して「農業テーマパーク」観光とも掛け合わす。観光を通じて子供の育成も。

③ 「みせるばやお活用」「おせっかいする人を集める場」

- ・コミュニティの場、情報発信の場として活用はいただいている。
(ただ、コロナで次の一手が見いだせていない部分も)
- ・「中高生向けの職業セミナー」の定期開催。中高生向けに八尾市の企業さんを知ってもらい、選べるように。そしてゆくゆくは八尾の企業に。月例などにし、継続していくことが大事。
- ・「少子化対策」若手社員同士の出会いの場として交流会の開催。
(部活動や運動会なども)
- ・みせるばやおの集客ノウハウ（先月の周年イベントでは1,000人動員を達成し、コロナ前よりも集客することができた）も提供できれば。

～最後に山縣座長より～

今日の段階で具体的なアイデアが浮かび始めた。次回からはしばらく部会にて具体的にどんな実験をしようか検討していく。

今日いただいたアイデアも何も調整しなくても、繋がっている。

(5) その他連絡事項について

次回 第1回検討部会の日程調整の連絡をさせていただく

3. 閉会

以上

<参考：当日のグラフィックレコーディング>

八尾中産業振興会議 第2日 本体会議

令和4年9月16日(金)

今回は、**実証実験** のための

八尾市の産業振興について

根幹事業 + デジタルバージョン 推進事業

小学生の動画制作

八尾あんど情報局
連携協定 Forbes Japan

(※)1/17 × 大阪信託 〇
35のJTV

akippa株式会社

八尾歴の長い方から右回りに
チェック

今のこと
気になっていること

会話をあつめる上で
雑談

前回出たアイデアの
リレーピク!

コミュニティ参加への支援
& 醸成

農地の活用
通し体験できる。
価値を生みだせるもの。

働くことの楽しさを
伝えるための
コンテンツ制作
& 仕掛けづくり

挑戦する人を
支えるまろにしたい
よあ!

挑戦する人を育てる
(ための情報発信)

エニエ
八尾の子ども達の
未来

学校と地域の大人
子ども達と
"あそび" する

八尾空港
八尾と1102と
113113ある。地域が
島が11に8-2118

ある種の多様性

